

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立公津小学校

1 学校教育目標

心豊かで 自ら学ぶ たくましい児童の育成

2 本年度の重点化された具体的な目標

- 「明るく楽しい学校」で よく学び 仲よく遊ぶ児童の育成を図る。
 - ・学校経営、学校行事の充実を図り、豊かな心を育てる。
- 「あじさい運動」の推奨・率先垂範の継承。
 - ・挨拶運動の活性化、意識の向上を図る。
- 一人一人の児童に基礎・基本を身につけ、進んで考え、学習する力をつける。
 - ・公津っ子サポーター事務局との連携を密にし、学習支援の依頼を計画的に行う。
- 開かれた学校づくりを推進し、学校・保護者・地域との一層の連携を図る。

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
教育目標	学校は、教育目標「心豊かで 自ら学ぶ たくましい子ども」の育成をめざし、教育活動を進めている。	保護者の85%が「よくあてはまる」「あてはまる」と答えている。	A	道徳教育の研修と伝統として行っている挨拶運動の意識の向上に向けた取組を行う。
教育課程 学習指導	学校は、わかりやすい授業を工夫したりして、子どもの学力向上を図っている。	保護者の86%が「よくあてはまる」「あてはまる」と答えている。児童の87%が授業がわかると答えている。	A	計画的な研修と主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を進める。
組織・運営	学校は、子供の様子をよく観察し、情報を集め、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	いじめ防止の校内体制が「不十分」と答えた保護者は7%、「わからない」と答えた保護者は14%だった	B	「自他を大切に」「受容する」心を育てる組織的な教育と率先垂範を継続する。
生徒指導 教育相談	学校は、子供の相談にのり、悩みを解決しようとしている。	相談できる教師がいるの問いに74%の児童が「よくあてはまる」「あてはまる」と答えている。	A	児童支援体制を整備する。(児童が相談したい職員を選び面談ができるようにする。)
特別支援	学校は、合理的配慮の申出を受け付け、適切に対応している。	保護者の30%が個に応じた指導について、32%が合理的配慮に対する対応について「わからない」と回答している。	B	学校だより、保護者会、授業参観等の機会を使い、特別支援教育について保護者に啓発を続ける。
地域との 協働	学校は地域の人々にたくさん協力してもらっている。	児童の「地域の方々に協力していただいている」という意識は97%。昨年度より上った。	A	保護者や地域に対する学校運営協議会の取組を周知する。

4 自己評価の結果の分析

・「特別支援教育の充実」「合理的配慮の申出」については、保護者の「わからない」が多数いる。文書でのお知らせに加え、保護者会等での説明の機会を増やす。個別の教育支援計画、指導計画及について、職員がしっかり理解して作成、活用していけるよう支援する体制づくりが必要である。一人一人の子どもたちに寄り添い、力を付けられるような教育を推進していく。

・学校全体として、思いやりや相手意識を育てる道徳教育、人権教育の取組を計画的に実施していく。校内研修で、不適切な指導について共通理解を図った。今年度も、いじめ防止基本方針の見直しとともに、職員が毅然として「いじめやいじわるを許さない」という態度やいじめから絶対を守るという姿勢を強く示していくことを徹底していきたい。